

家庭、技術・家庭

【小 学 校】

家庭科は、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住等に関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを目標としている。

この目標を実現するためには、児童が自ら直接的な体験を通して、調理や製作等の手順の根拠について考えたり、家庭生活を支える仕事を実践する喜びや、自分が作品を完成させることができたという達成感を味わうことができたりする授業を展開していくことが大切である。

1 家庭科の指導の重点

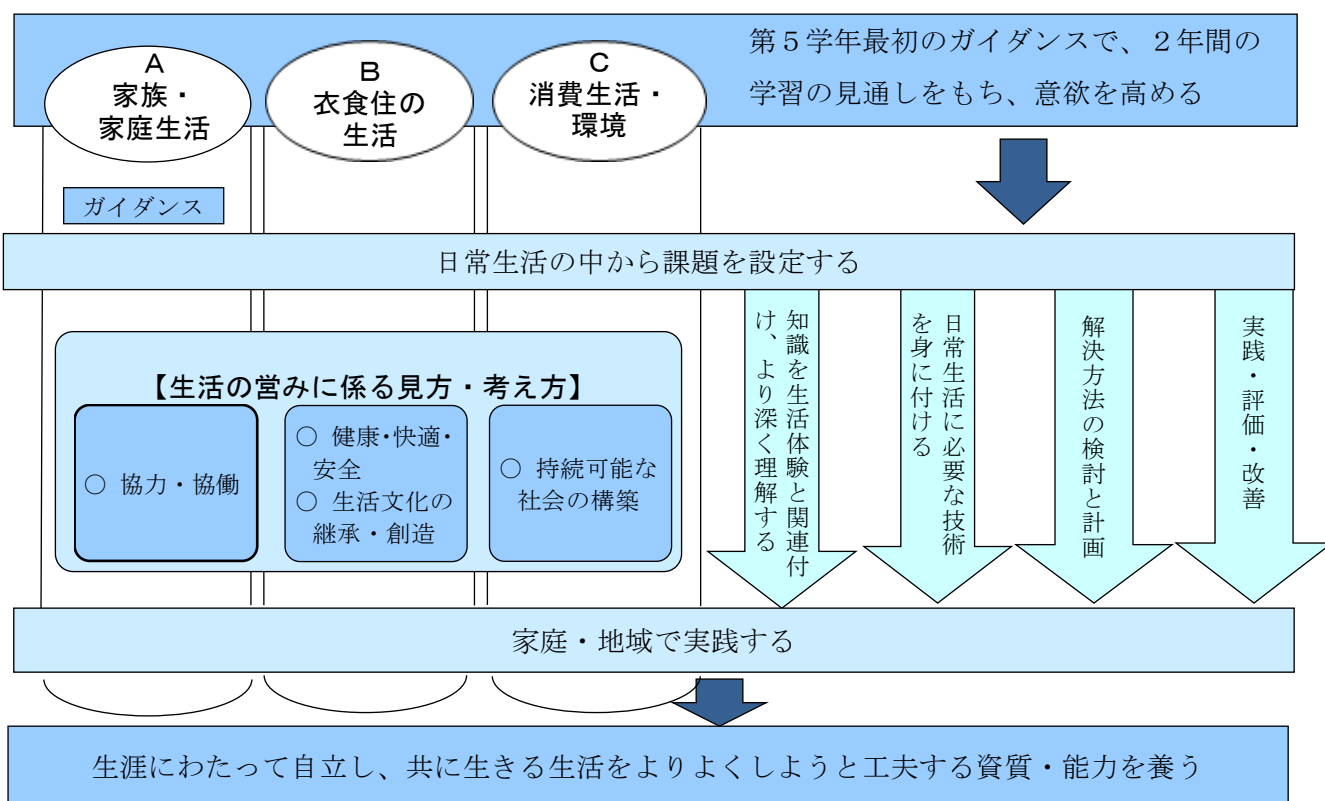
(1) 日常生活に必要なことを理解し、それらに係る技能を身に付けられる学習活動を展開しよう

ア 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、知識を生活体験等と関連付けてより深く理解し、自分の成長を自覚するとともに、家庭生活への関心を高め、その営みの大切さに気付くようにする。

イ 多様な直接体験等による具体的な学習を展開し、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、身近な生活に活用できるようにする。

(2) 日常生活の中から課題を見付けて、解決していく力を育てよう

食育の推進や持続可能な社会の構築といった社会の要請に対応して、主体的に生活をよりよくしようと工夫する能力や実践的な態度を培うことが必要である。そのために、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、新たな情報を収集しながら、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養うことが大切である。



(3) 家庭や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てよう

学習した内容を実際の生活で生かす場面を設定し、自分の生活が家庭や地域と深く関わっていることを認識したり、自分の成長

を自覚して実践する喜びに気付いたりすることができる活動等を充実させることが大切である。なお、家庭生活が個々の家庭によって異なることから、児童を取り巻く家庭環境に十分配慮して学習を進めるようにする。

【実践的な態度の育成】

身に付けた知識
や技能を日常生活に活用できる
喜びへの気付き

実践的な
活動の充実

家族や地域と深く
関わっている
ことを認識

自分の成長を自覚

2 主体的・対話的で深い学びを引き出す家庭科の学習指導

(1) 日常生活の中から課題を設定しよう

既習の知識及び技術や生活体験をもとに生活を見つめ、生活の中から問題を見いだし、解決すべき課題を設定する。

(2) 解決方法を検討し、計画を立てよう

ア 生活に関わる知識及び技能の習得に粘り強く取り組めるようにする。そのためには、学習の目的を明確にして、児童が学ぶ意義を自覚し、主体的に取り組めるようにする。

イ 児童同士で協働したり、異なる意見を共有したりして考えを深め、家族や身近な人々との会話を通して考えを明確にしながら解決方法を検討し、計画を立てる。

(3) 課題解決に向けた実践活動をしよう

生活に関わる知識及び技能を活用し、調理・製作等の実習や、調査、交流活動等を行う。

(4) 実践活動の評価・改善をしてみよう

実践を振り返って新たな課題を見付け、改善策を検討する。

(5) 家庭・地域で実践してみよう

自分の生活が家庭や地域と深く関わっていることを認識したり、自分の成長を自覚して実践する喜びに気付いたりすることができる活動を充実させる。

(6) 評価を次の学習活動につなげよう

ア 一人一人のものの見方や考え方、取組のよさを共感的な態度で評価し、児童の主体的な学習を支援する。また、児童の学習活動を適切に評価し、指導と評価の一体化を図る。

イ 「学びに向かう力・人間性等」は、「してもらう自分」から「できる自分」へと成長しているかどうかを見るため、長い区切りの中で変容を評価する。「思考力、判断力、表現力等」は、課題の解決を目指して自分なりに工夫する過程を含めて評価する。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業の工夫・改善（小6清掃クリーン大作戦）

身に付けさせたい力等

- ・ 気持ちよく生活するためには住まいの清掃が必要であることが分かり、清掃の仕方を理解し、適切に行うことができる。
- ・ 生活の中から住まいの清掃に関する問題を見いだし、課題を設定し、快適さの視点から効果的な清掃の仕方を考え、工夫することができる。
- ・ 快適な住まい方について身に付けた力を、家庭生活をよりよくするために生かすことができる。

活動例 <普段の清掃から課題を見付けよう（1／5時）>

- ・ 普段の清掃活動を映像で振り返ったり、校内の落ちない汚れを見付けたりする。（ICTを活用することで、清掃への興味や関心が高まり、主体的に活動に取り組めるよう工夫する。）

※第2時以降は、

- ・ 家族へのインタビューやゲストティーチャー等を活用し、学びを充実したり、実践した清掃の仕方を学級の班内で発表したりする。
- ・ 落ちにくい汚れの清掃方法をインターネットで調べたり、家族に聞いたりして、いろいろな方法を実践する。

【中 学 校】

技術・家庭科は、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目標としている。

この目標を実現するためには、生徒自らが生活や技術に関心をもてるような、実践的・体験的な活動を組み立て、家庭や地域社会との連携を重視した題材を設定することが大切である。また、学習内容と将来の職業の選択や生き方との関わりの理解に触れるなど、生徒の実態に応じた内容や活動を準備することも重要である。

1 技術・家庭科の指導の重点

(1) 自立して主体的な生活を営むために必要な知識と技能を身に付けられる学習活動を展開しよう

技術分野	家庭分野
ア 身近な生活や産業等も含めた社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換、情報の技術の仕組みと関係する科学的な原理・法則の基礎を理解できるようにする。	ア 子供を育てる機能、心の安らぎを得るなどの精神的な機能、衣食住等の生活を営む機能、収入を得るなどの経済的な機能、生活文化を継承する機能等について理解を深められるようにする。
イ 技術を安全・適切に活用する技能を身に付け、技術と生活や社会、環境は相互に影響していることを理解できるようにする。	イ 習得した知識と技能を既存の知識や生活経験、他の技能と関連付け、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できるようにする。

(2) 生活や社会の中から課題を見つけて、解決していく力を育てよう

技術分野	家庭分野
ア 身近な生活や産業等も含めた社会の中から技術に関わる問題を見だし、課題を設定して解決策を構想できるようにする。	ア 既習の知識及び技能や生活経験をもとに家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし、課題を設定して解決策を構想できるようにする。
イ 製作図や回路図、計画表等に表現して試行錯誤しながら課題の解決策を具体化し、実践を評価・改善することのできる力を身に付けられるようにする。	イ 調理や製作等の実習や、調査、交流活動等を通して課題の解決策を振り返り、考察したことを発表し合い、他者からの意見を踏まえて改善することのできる力を身に付けられるようにする。

(3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、将来にわたり生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育てよう

技術分野	家庭分野
ア 環境への負荷や安全性等の多様な側面から、作る場面、使う場面、廃棄する場面、万が一のトラブルの場面等と関連付けた学習展開を工夫する。	ア 家族の互いの立場や役割が分かり、自分の生活を支える家庭生活が地域との相互の関わりで成り立っていることが理解できるようにする。
イ 使い手だけでなく作り手の立場も意識し、よりよい生活と持続可能な社会を構築するために技術を工夫し創造しようとする態度を育てる。	イ 家族と協力し、地域に住む様々な世代の人々と共に力を合わせ、主体的に物事に取り組み、生活をよりよくするために実践しようとする態度を育てる。

2 主体的・対話的で深い学びを引き出す技術・家庭科の学習指導

(1) 学ぶことに興味や関心がもてる課題を設定しよう

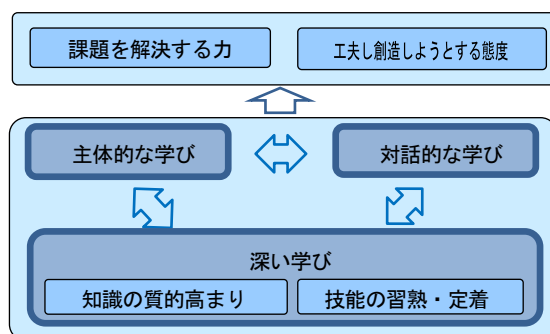
- ア 学習した内容を実際の生活で生かす場面を設定する。
イ 自分の生活が家庭や地域社会と深く関わっていることを認識できる活動や、自分が社会に参画し貢献できる存在であることに気付ける活動を取り入れる。

(2) 協働、対話を通して、自己の考えを広げ深める活動に取り組もう

他者と協働したり対話したりする中で、自らの考えを明確にしたり、広げ深めたりする活動を取り入れる。技術分野では、直接、他者との協働を伴わなくても、既製品の分解等の活動を通してその技術の開発者が設計に込めた意図を読み取るなどの、対話的な学びを行うことで、自己の考えを広げ深める。

(3) 問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えをもとに生活や技術を創造したりする活動に取り組もう

- ア 生徒が、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定するための活動を工夫する。
イ 課題の解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価・改善といった一連の学習活動の中で、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせながら課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりする活動を重視する。



(4) 評価を次の学習活動につなげよう

「内容のまとまりごとの評価規準」を作成し、生徒の学習成果を的確に捉え、教員が指導の改善を図ったり、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かったりすることができるようにする。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業の工夫・改善

技術分野〈中2エネルギー変換の技術で、安心・安全な生活を実現しよう【内容C(2)イ】〉	家庭分野〈中3我が家の防災対策プロジェクト【内容B(7)】〉
身に付けさせたい力等 - 生活や社会の中からエネルギー変換の技術と安心・安全に関わる問題を見いだして、災害に必要な課題を設定できる。 活動例 (6/20時) - 災害時にエネルギー変換の技術を用いて解決する問題を見付け、話し合うことで課題を設定する。(身近な災害や非常時の映像を見せる場面では、大型モニタ等で拡大表示し、興味や関心を高める。また、1人1台端末を用いることで、意見交換や集約を行うなどICTを効果的に使用し、主体的な活動となるように工夫する。) ＜テーマ例＞ 非常時に役立つ製品を開発しよう ＜生徒の課題設定例＞ - 夜間停電したら室内の移動に困った。 - 就寝中に地震が起こると気付かない。	身に付けさせたい力等 - 自然災害に備えるための我が家の防災対策の中から問題を見いだして、課題を設定することができる。 - 実践した結果を評価・改善するとともに、新たな課題を見付け、次の実践に取り組もうとする。 活動例 (3、4/4時) 「我が家の防災対策プロジェクト」の実践をグループごとで発表し、交流する。(1人1台端末を用いて、意見交換や集約を行うなどICTを効果的に使用し、主体的・対話的な活動となるように工夫する。) 「我が家の防災対策プロジェクト」の実践を振り返り、実践した結果を評価したり、改善したりする。(意見交流や1人1台端末でのシミュレーションを通して、評価・改善を行い、対話的で深い学びとなるよう工夫する。)